

消費財企業の気候変動に関する開示動向



消費財セクター 公認会計士 青木 一

▶ Hajime Aoki

主に消費財メーカーの監査業務に従事する。当法人の消費財セクターに所属し、LTV (Long-term value : 長期的価値) 担当として活動をしている。
＜お問い合わせ先＞EY新日本有限責任監査法人 消費財セクター E-mail : hajime.aoki@jp.ey.com

I はじめに

消費財企業（主に食品業、飲料業を営む企業をここでは「消費財企業」と呼びます）では、統合報告書やサステナビリティ・レポート等の任意の開示書類でサステナビリティ情報の開示を行い、投資家との対話を積極的に行っています。また、有価証券報告書において開示をしている企業もあります。

本稿においては、すでに開示されている企業の気候変動に関する内容から、消費財企業における傾向について紹介します。なお、文中の意見にわたる部分は筆者の私見であることをあらかじめ申し添えます。

II 消費財企業の気候変動に関する財務情報開示

消費財企業がサステナビリティ情報に関する開示を行う中で、最も重要なテーマの一つとして、気候変動に関する財務情報が挙げられます。

1. TCFDによる提言と推奨される情報開示

TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）が提言及び推奨する開示は＜表1＞の通りです。TCFDによる提言の要素は、ガバナンス、戦略、リスク管理、指標と目標の四つであり、11の項目の情報開示を推奨しています。その中でも最も重要なものの一つとされているのが、「戦略」部分の「推奨される開示内容」c)に記載の「気候関連シナリオ」の開示になります。

消費財企業の「気候関連シナリオ」にどのようなものが考えられるのかについて分析していきます。

2. 消費財企業における代表的な気候関連シナリオ

TCFDによる提言では、気候関連のリスク及び機会が企業にもたらす財務的影響についての情報開示を求めています。ここでは、リスクだけではなく機会について検討することが重要とされています。

気候関連リスクは移行リスクと物理的リスクに大別され、移行リスクには、低炭素経済への移行に関して生じる政策・法規制リスク、技術の陳腐化、マーケットの変化による市場リスクや評判リスクがあります。物理的リスクには台風や異常気象等を原因とした資産の毀損等の急性リスクと平均気温の上昇や海面上昇等の慢性リスクがあります。

また、気候変動に関連したビジネスの機会として、資源やエネルギー源の効率的な利用によるコスト削減、低炭素製品やサービスの需要増加による売上増加、新規市場の拡大やレジリエンス計画による市場価値向上などを例示しています。

消費財企業における代表的なシナリオの傾向を分析するため、消費財企業のうち、統合報告書等の中でTCFDに言及している9社を参考に、気候関連リスクと機会を区分ごとに開示されている代表的な項目を紹介します。

気候関連リスクのうち、移行リスクとして、特に消費財企業で開示されている傾向にあるのは、政策・法規制リスク、市場リスク、評判リスクです。また、物理的リスクについては、急性リスク、慢性リスク共に開示されています。

機会については主にエネルギー源、製品・サービス、市場について開示されている傾向にあります。

3. 消費財企業における代表的な気候関連シナリオ事例

2.で示した気候関連のリスク及び機会より、具体的

▶表1 TCFDによる提言と推奨される情報開示

ガバナンス	戦略	リスク管理	指標と目標
気候関連のリスク及び機会に係る組織のガバナンスを開示する。	気候関連のリスク及び機会をもたらす組織のビジネス・戦略・財務計画への実際の及び潜在的な影響を、そのような情報が重要な場合は、開示する。	気候関連リスクについて、組織がどのように識別・評価・管理しているかについて開示する。	気候関連のリスク及び機会を評価・管理する際に使用する指標と目標を、そのような情報が重要な場合は、開示する。
推奨される開示内容	推奨される開示内容	推奨される開示内容	推奨される開示内容
a) 気候関連のリスク及び機会についての、取締役会による監視体制を説明する。	a) 組織が識別した、短期・中期・長期の気候関連のリスク及び機会を説明する。	a) 組織が気候関連リスクを識別・評価するプロセスを説明する。	a) 組織が、自らの戦略とリスク管理プロセスに即して、気候関連のリスク及び機会を評価する際に用いる指標を開示する。
b) 気候関連のリスク及び機会を評価・管理する上での経営者の役割を説明する。	b) 気候関連のリスク及び機会が組織のビジネス・戦略・財務計画に及ぼす影響を説明する。	b) 組織が気候関連リスクを管理するプロセスを説明する。	b) Scope 1、Scope 2及び当てはまる場合はScope 3の温室効果ガス(GHG) 排出量と、その関連リスクについて開示する。
	c) 2℃以下シナリオを含む、さまざまな気候関連シナリオに基づく検討を踏まえて、組織の戦略のレジリエンスについて説明する。	c) 組織が気候関連リスクを識別・評価・管理するプロセスが組織の総合的リスク管理にどのように統合されているかについて説明する。	c) 組織が気候関連リスク及び機会を管理するために用いる目標、及び目標に対する実績について説明する。

出典：「気候関連財務情報開示タスクフォースによる提言（最終報告書）」

▶表2 事例の抜粋

	A社	B社	C社	D社
世界観	(2℃シナリオ) ▶ 脱炭素の規制が強化されて二酸化炭素排出量を抑える政策を実施しているが、2℃の気温上昇が生じている。	(4℃シナリオ) ▶ GHG（温室効果ガス）排出量が十分に削減できず、気温上昇を抑えることはできないことから4℃上昇した結果、農作物の収穫量が大幅減となり、集中豪雨等の自然災害が拡大する。	(4℃シナリオ) ▶ 現状の世界が継続すると気温は4℃上昇し、農作物は大幅な生産減となり、価格は高騰し、原材料の仕入れ価格は高騰する。また、異常気象による集中豪雨や洪水、海面の上昇により、サプライチェーンの寸断が起り、原材料が調達困難となる。	(2℃シナリオ、4℃シナリオ) ▶ いずれも、生産者及び顧客の環境に配慮する意識が高まるため、消費行動が大きく変化することが想定される。
リスク	(政策・法規制リスク) ▶ 炭素税の導入により原料、容器・包装材等に幅広く影響してコストが増加するリスク	(市場リスク、物理リスク慢性) ▶ 温暖化により主要な原料農作物が大幅な収穫減量となり、調達コストが上昇 (物理リスク急性) ▶ 集中豪雨等の自然災害の拡大により、操業停止となる工場が発生する可能性	(物理リスク急性・慢性) ▶ 原料の仕入れ価格が高騰し、サプライチェーンの寸断により原料入手が困難となり、生産も困難となる。	(市場リスク、評判リスク) ▶ 環境配慮に対する意識の高まりに対応した製品が求められる。
【対応策及び戦略】	▶ 各製品、商品への価格転嫁を実行	▶ 特定品種に依存しない技術開発や原料の大量増殖技術の推進 ▶ 洪水対応マニュアル等の整備	▶ 事業継続計画についての定期的検証	▶ 再生可能エネルギーの使用や環境に配慮した新品種の開発や販売の推進
機会	(エネルギー源、製品・サービス) ▶ 省エネルギーやエネルギーの自社創出、エネルギー資源の購入により、コスト削減の機会	(製品サービス、市場) ▶ 気温上昇により熱中症や感染症のリスクが拡大する可能性	(市場) ▶ 気温の上昇した世界において、顧客の需要の変化	(製品・サービス) ▶ 環境配慮に対する意識の高まりに対応した製品が求められる。
【対応策及び戦略】	▶ 省エネ対策を実施し、目標年度までにCO ₂ 排出量を50%削減	▶ 熱中症や感染症の抑制のための免疫維持に関する新商品の開発	▶ 特定種類の製商品の需要増加に対応する製品開発	▶ 再生可能エネルギーの使用や環境に配慮した新品種の開発や販売の推進

(注) A社、B社、C社、D社の4社の事例を抜粋。各社が想定している世界観からどのようなリスク及び機会を選定し、どのような対応策及び戦略を開示しているかを調査。

にどのようなシナリオが開示されているかを調査し、4社の事例を抜粋しました（<表2>参照）。

企業は、信頼性のある外部のシナリオを利用しつつ自社に関連する情報を入手した上で、ステークホルダーを意識した世界観を整理し、組織に関連する移行リスク・物理リスクを包含したシナリオ群を定義します。シナリオの選択においては、IEA（国際エネルギー機関）等の情報を参考に「1.5～2℃シナリオ」と「4℃シナリオ」の複数を選択し、その温度の中で起こりうるシナリオを記載している事例が多いといえます。

選択した温度帯のシナリオの中でリスク及び機会を整理し、対応策及び戦略へとつなげる開示が代表的です。このような情報開示により企業の気候変動に対するレジリエンスの評価につながると考えられます。

III おわりに

気候変動に関する財務情報については、各消費財企業において開示する内容に一般的な傾向はあるものの、個々の項目についてどのくらいの深度で開示するかにより内容が異なってきます。

最初からTCFD提言に高度に準拠した開示を目指すのは難しいと考えられ、年々開示を進化させている企業が多いことがわかりました。

各企業で直面する気候変動に関するレジリエンスを評価することがポイントです。ステークホルダー目線でシナリオを作成し、リスク及び機会にはどのようなものがあるのか、対応策と戦略につなげて読み手にわかりやすく開示することがポイントになると考えます。